

交流事業

秋田・酒田交流事業について

「北前船寄港地」という秋田市と酒田市の共通した歴史背景を、両市民が関心を持つきっかけとして、両市民間の交流の活性化を目的に平成27年度から交流事業を実施しています。

これまでに両市の歴史や文化、祭りや食、スポーツなどの地域資源を活用した交流事業に多くの市民が参加し、交流を深めました。

主な交流事業
観光ツアーの実施
両市の魅力を発信するため、北前船ゆかりの地やおすすめの観光地をお互いに巡る観光ツアーを行っています。



飛島ジオパーク散策

まつりの交流
酒田まつりで竿燈や土崎港曳山まつりの曳山などを披露し、土崎港曳山まつりには酒田ばやし、“これが秋田だ！食と芸能大祭典”へは酒田の大獅子が参加しました。



酒田まつりで竿燈と立て山鉦が共演

秋田と酒田の縁
酒田市にあった秋田町
1573年～1612年の間にできた町で、宿場町として栄えました。町名は、秋田街道に面していたからとされるほか、豪商の永田若狭が秋田より居住したからなど諸説があります。



明治～大正期の旧秋田町（現在の日吉町・中町・船場町）を映した絵はがき（酒田市立資料館蔵）

秋田市にあった上酒田町・下酒田町
慶長年間（1596年～1615年）に酒田からの移住者により開かれた町であると伝えられています。
土崎港曳山まつりに参加する町内の名称は主に旧町名が用いられています。



下酒田町の曳山

秋田市ホームページ（秋田・酒田交流事業）



秋田

北前船寄港地を旅する



土崎港曳山まつり



秋田市観光・イベント情報総合サイト アキタッチ+

秋田市は、古代には、秋田城が置かれ、北海道や大陸の渤海国等との交流・外交拠点となり、中世には、日本の重要港がピックアップされた三津七湊のなかに秋田湊が含められ、海に活躍した大名・安東（藤）氏の拠点となるなど、古くから日本海海運の重要港としての役割を果たしてきました。

江戸時代には、土崎の港が、佐竹藩の年貢米の集積・積み出し港となり、北前船の寄港地として栄えました。その歴史は、日本遺産の構成文化財となった8件に加え、地名、名字等も含め、様々な形で遺されています。

秋田市と北前船

北前船寄港地を旅する

酒田



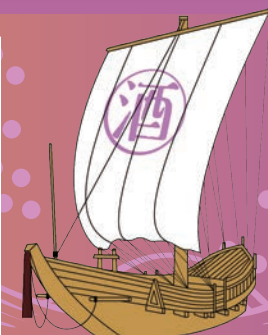
酒田花火ショー

酒田市の北前船

古くから商人で賑わう湊町として栄えてきた酒田は、江戸時代、河村瑞賢による酒田湊を起点とする「西廻り航路」の整備により出羽国の米の集積地・積出港となり、飛躍的に発展しました。

北前船の往来で全国とつながった酒田では、日本一の大地主と称された本間家をはじめ数多くの豪商の邸宅が軒を連ねたほか、料亭文化や茶屋文化が花開き、華やかで自由闊達な気風が育まれました。

今も市内には往時の面影が色濃く残り、北前船が運んだ京の文化が大切に受け継がれています。



酒田さんぽ（観光サイト）

日本遺産



日本遺産

「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」

日本遺産とは

「日本遺産（Japan Heritage）」は地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

2017年4月28日に日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」として秋田市や酒田市を含む11市町が認定されました。その後2回の追加認定があり、16道府県45市町が認定されています。（2019年12月現在）



河村瑞賢像（日和山公園・酒田市）

北前船とは

北前船とは、江戸中期から明治中期にかけて、日本海側を大阪から北海道まで航行していた船で、積み荷を各地で売買する商船（買積船）を指します。当時は「弁財船」とも呼ばれていました。寄港地で安い商品があれば買い、それを高く売れる場所で売るという「商売」は、大阪と北海道を1往復するだけで千両（現代に換算すると6千万円から1億円ほど）もの利益を得ることができたと言われていました。見習いの船乗りから船頭になり、お金を貯めて自分の船を持つと大金持ちになれる…。身分制度のあった時代に自分の才覚と努力でそのようなチャンスをつかむことができる北前船は庶民の夢物語でもありました。北前船は商品に限らず、食文化や民謡、織物文化等も運び、全国各地に当時の繁栄を偲ぶモノ・コトが残っています。

北前船交易のきっかけとなった「西廻り航路」

江戸の人口増加により米の需要が増し、1672年に幕府より最上川流域の天領（幕府直轄領）米を酒田から江戸まで運ぶ航路整備を命じられた御用商人の河村瑞賢は、酒田を起点として下関を回り、瀬戸内海から大阪を経由して江戸に向かう「西廻り航路」を整備しました。

航路はのちに秋田や松前、函館にも開かれ、年貢米のほか、寄港地の様々な産物を運ぶ北前船交易がはじまりました。



北前船公式サイト

土崎港曳山まつり (7/20～21)

国重要無形民俗文化財、ユネスコ無形文化遺産である**土崎神明社祭の曳山行事***。武者人形を飾った曳山が、港ばやしとともに豪快に町を練り歩く、勇壮なおまつりです。



土崎港曳山まつり

秋田竿燈まつり (8/3～6)

東北三大祭りの一つで、約270年の歴史を持つ国の重要無形民俗文化財。重さ50kg、高さ12mの竿燈を手のひら、額、肩、腰へと巧みに移し替えていく演技は、圧巻です。

大正寺おけさまつり (8月第3日曜日)

九州地方のハイヤ節がルーツといわれ、北前船で伝わったとされる**大正寺おけさ***。総踊りや郷芸能文化の祭典などは、雄和の夏の風物詩。



秋田竿燈まつり

大正寺おけさまつり



食と芸能大祭典



秋田醸しまつり



酒田まつり (5/19～21)

上下の日枝神社の例大祭「山王まつり」として1609年から続く祭りで、1976年の酒田大火後に酒田まつりと改称。復興のシンボルの酒田大獅子も山車行列で練り歩きます。



酒田まつり

酒田港まつり 酒田花火ショー (8月第1土曜日)

東北最大級の大型花火の競演。打ち上げ幅2kmの超ワイドスターマインや大空中ナイヤガラは酒田ならではの、

酒田日本海寒鰯まつり・酒まつり (1月下旬の土・日曜日)

日本海の冬が旬の「寒鰯」を味わうイベント。雪の降る中で食べるアツアツの寒鰯汁で身も心も温まります。酒の酒田の酒まつりも同時開催。



酒田港まつり 酒田花火ショー 酒田日本海寒鰯まつり・酒まつり

酒田雛街道 (3/1～4/3)

北前船で運ばれた旧家などに伝わる雛人形や酒田に伝わる素朴な鵜渡川原（うどがわら）人形、傘福を市内各所で展示します。期間中、料亭やレストランではひな膳やひなランチ、ひなスイーツを提供。



雛めぐり*酒田雛街道(酒田市立資料館蔵)

食と芸能大祭典 (5月最終週末)

ユネスコ無形文化遺産登録の曳山・屋台3行事などのパレードのほか、竿燈まつりも参加。グルメ屋台では秋田の美味しいものが県内各地から大集合。

秋田醸しまつり (10月下旬)

秋田ならではの「醗酵・醸造文化」が体験できます。味噌、醤油、麹などの醗酵食品や、ご当地グルメが大集合!恒例の「日本酒の利き酒」もぜひ。



県指定文化財「秋田街道絵巻*」(土崎湊部分) 伝 荻津勝孝(秋田市立千秋美術館蔵)

土崎みなと歴史伝承館

土崎地区の歴史や文化を知ることができる施設。ユネスコ無形文化遺産に登録された「土崎神明社祭の曳山行事」の曳山や、日本最後の空襲のひとつである土崎空襲についての展示をご覧ください。



土崎みなと歴史伝承館



土崎神明社



金刀比羅神社



秋田風俗絵巻

土崎神明社

元和6年(1620)、秋田(安東・藤)氏の居城・湊城跡に創建された土崎の総鎮守。例祭は、ユネスコ無形文化遺産の**土崎神明社祭の曳山行事***。北前船の船乗りが神輿を寄進し今の形になったと言われています。

金刀比羅神社

若狭の小浜(現福井県)の回船問屋の氏神を土崎に移し創建された神社。参道は北前船で運ばれた

福井にしかない笏谷石です。石製狛犬*は県指定文化財。

こんぶの手すき加工技術*

伝統的な手すき昆布技術。敦賀(福井)では、手すき昆布に使う刃物の刃先を整えることを「あきたを入れる」と言います。



手すきこんぶ



高清水の丘の五輪塔



石造り五重塔



秋田市ポートタワー「セリオン」

秋田風俗絵巻*

男鹿の山を背景とし、北前船が停泊する港が描かれています。(秋田県立博物館所蔵)

高清水の丘の五輪塔*

港に入る北前船の目印となった五輪塔が護国神社境内の北西にあり、山と川が出会う雄大な港の景色が楽しめます。

寶塔寺石造り五重塔*

羽州街道の道筋、面影橋の近く寶塔寺境内の東の丘に立つ高さ約9mの石造りの五重塔。嵐に遭い難破を免れた北前船の船乗りが寄進したと伝えられています。

秋田市ポートタワー「セリオン」

現在の港を見るならココ。地上100mのパノラマ。秋田の特産品や海産物を楽しめる道の駅あきた港のメインタワー。



山居倉庫



酒田山王祭祭礼用亀笠鉾*



旧燈屋



本間美術館・鶴舞園



本間家旧本邸

本間家旧本邸*

本間家3代光丘が1768年に幕府巡検使用宿舎を新築し、庄内藩主酒井家に献上した建物。書院造りの武家屋敷と商家造りが一体となった全国的にも珍しい建築様式で、拝領後1945年春まで商家造りの方を住まいとしていました。

山居倉庫*

1893年、酒田米穀取引所の付属倉庫として建造され、現在も農業主酒井家に献上した建物。書院造りの武家屋敷と商家造りが一体となった全国的にも珍しい建築様式で、拝領後1945年春まで商家造りの方を住まいとしていました。

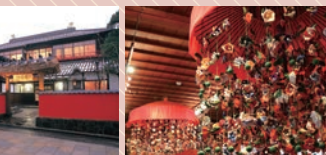
北前船

ひよりま 日和山公園*

北前船の船乗りが出航前に日和を見た場所。園内には日本最古級の木造六角灯台や方角石、常夜灯が現存するほか、千石船が1/2スケールで再現されています。



日和山公園



舞娘茶屋 相馬樓



山王くらぶ

舞娘茶屋 相馬樓(相馬屋主屋*)

北前船の船主や商人が利用した料亭「相馬屋」を修復し開樓。大広間では酒田舞娘の踊りと食事が楽しめるほか、竹久夢二美術館も併設されています。

さんまの 山王くらぶ*

1895年建築の酒田を代表した元料亭。北前船の寄港地として栄え

た酒田の歴史や訪問した文人墨客を紹介しているほか、日本三大つるし飾りの一つ「傘福」も展示。

あふみの 旧燈屋*

燈屋は江戸時代を通じて繁栄した酒田を代表する廻船問屋で、酒田三十六人衆として町政にも参画。屋敷は石置杉皮葺屋根の典型的な町屋造りとなっています。国指定史跡。

本間美術館・鶴舞園(本間氏別邸庭園「鶴舞園」*)

1813年、本間家が港湾労働者の冬期失業対策事業として建築した別荘で、現在は私立美術館として利用。鳥海山を借景とした回遊式庭園「鶴舞園」には、北前船で運ばれた諸国の名石が配されています。国指定名勝庭園。

きりたんぼ鍋

つぶしたうるち米のご飯を杉の串にまいて焼いた「きりたんぼ」を、比内地鶏、ごぼう、舞茸、ネギ、セリなどと一緒にしょうゆ味の鍋にしたものが「きりたんぼ鍋」です。

カスベ

エイのヒレの軟骨部分を干したものを甘辛く煮付けたもの。土崎港曳山まつりでは欠かせない郷土の味。



きりたんぼ鍋

カスベ

北限の秋田ふぐ

秋田県はふぐが獲れる北限の地。秋田産のふぐは北緯40度の冷たい海水でゆっくり育つため、身が引き締まり、味が深いのが特徴。秋田沖で水揚げが盛んになるのは5月～6月と10月～11月です。

日本酒

米どころ秋田は酒どころでもあります。県内には約35の酒蔵があり、



秋田ふぐ

日本酒



酒田のラーメン

約8割のお店が自家製麺を使用。コシのあるちぢれ麺は、魚介ダシのスープとよく絡み絶品。薄皮のワントン麺も特徴です。



酒田のラーメン

洋食

地元の食材を使ったフレンチやイタリアンなどの洋食の名店が数多く、特にフレンチは「フランス風郷土料理」「酒田フレンチ」と呼ばれています。

日本酒

米どころの酒田には7つの酒蔵があり、蔵元ごとに個性がはっきりしています。料理や好みによって選ぶのも楽しみの一つです。



洋食

日本酒

雪国秋田の気候風土を生かした「寒仕込み」や、「山内杜氏」の伝統の技でおいしいお酒を醸します。

道の駅「あきた港」

約5,000点と地域最大級の品揃えを誇り、秋田の特産品やお土産の買い物が楽しめるほか、食事処では新鮮な海の幸や産直野菜たっぷりの料理が食べられます。



酒田夢の倶楽部

山居倉庫の2棟を改良した酒田の観光物産館で、酒田のお土産品が勢揃いしています。軽食コーナーや食事処のほか、酒田の歴史や工芸品などを紹介する無料のミュージアムも併設。

